児童に見られるつまずき

　計算のきまりを活用し工夫して計算することができない

つまずき解消に向けた指導のポイント

　「どんな数字になれば、筆算をしなくても計算できるか」を考えさせたり、□や〇を用いた分配法則や交換法則、結合法則の式のどれに当てはまるかを考えさせたりして、具体的な式と計算の決まりを結び付けられるようにする。

指導事例集ｐ．８３

１　学年・単元名　　第４学年　式と計算のじゅんじょ（数量関係領域）

２　単元目標

（　）を用いた式や四則混合の式について、計算の順序を知り、計算のきまりについての理解を深める。また、式を見て具体的場面を想像したり、説明したりすることができる。

３　単元の内容

・（　）を使った式

・四則混合式での乗除先行について

・四則混合式の計算の順序ときまりのまとめ

・分配法則を中心とした計算のきまり

**・分配法則など計算のきまりを使った計算の工夫**

・加法と減法の関係、乗法と除法の関係

・式のよみ方

４　本時の目標

　・交換、結合、分配の法則など、計算のきまりをつかって、簡潔に計算する。

　・交換、結合、分配の法則など、計算のきまりをどのように工夫したのかを説明する。

５　本時の展開

|  |  |  |
| --- | --- | --- |
|  | 児童の活動 | 指導上の留意点  **太字：つまずきに対する手立て** |
| 導入  展開  まとめ | １　問題を読んで、課題をつかむ  99×53を、計算のきまりを使って、くふうして計算しましょう。また、計算のくふうを説明しましょう。  ２　100のかたまりを考えた立式をして問題を解く。  　99×53  　＝(100 – 1) ×53  ＝100×53 －１×53  　＝5300 – 53  　＝5247  ３　99×53計算で、計算のきまりを、どのように工夫したのか〇、△、□を使って説明する。  ４　ふりかえり | **・問題から100のまとまりを作ることができない児童には、「どんな数字になれば、筆算をしなくても計算できるかな」「99を100をつかった式で表すことができるかな」など、助言やヒントを出し、児童自身に気づかせるようにする**。  ・100×53では、９９×53よりも大きくなるので、１×53分　小さくなることを確認する。  　100×53  　100×53 －１×53  　 99×53  (100 – 1) ×53  ワークシート使用  参考：記入例  **・記号に数値を当てはまるというイメージができない児童には、**  **（□―〇）×△＝□×△―〇×△**  **など、□や〇を用いた分配法則や交換法則、結合法則の式を掲示し、（100―1）×53がどれにあてはまるかを考えさせる。**  　〇＝１  　△＝53  □＝100    （評価）  ・計算のきまりをつかって、簡潔に計算することができたか。  ・計算のきまりをどのように工夫したのかを説明することができたか。 |